

6てんしよー
 ●●●●●●●●●●
六 点 鐘

秋田県立視覚支援学校
 校報「六点鐘」No.209

令和6年12月25日 発行

〒010-1409
 秋田市南ケ丘一丁目1番1号
 TEL 018-889-8571
 FAX 018-889-8575
 shikaku-s@akita-pref.ed.jp



『地域社会に向けて』

教 頭 中 村 素 子

「なわとびが連続でとべるようになった」「ラジオでリクエスト曲をかけてもらった」「一人で買い物に行けるように歩行の力を付けた」「志望校に合格する」「鍼を上手になるぞ」「今よりももっと幸せな生活を実現するために努力をする」

これは、十月に開催した秋盲祭

のメイン会場、体育館入口を彩った星型カードに記された、本校児童生徒のメッセージの一部です。小学部児童から高等部専攻科の成人生徒まで計十五名の「うれしかったこと」「がんばりたいこと」が集まったそのコーナーは、私にはとても輝いて見えました。一人一人の思いや願いが改めて伝わってきて、胸が熱くなる思いでした。来場いただいた皆様にも、ステーション発表やコーナー発表とともに、児童生徒のストレートなメッセージが心に響いたのではないかと思います。

全県の特別支援学校の中で在籍人数は最も少ない本校ですが、幅広い年齢層の児童生徒が互いを

尊重し合いながら、自分の夢や目標に向かって学んでいます。教育活動としては非常に幅広い内容に取り組んでいます。残念ながらその認知度は決して高くはありません。そこで、今年度は、地域に向けた発信活動に改めて力を入れて取り組んでいます。

二期には、理療科の校外臨床実習の一環としての理解啓発マツサージを、秋田市にぎわい交流館AUと教育庁のご協力をいただいで初めて実施しました。合計七十二名の方が体験してくださり、「体が軽くなった」「楽になった」という、うれしい言葉をたくさんいただきました。十一月末には、相談支援機関の職員の方を主対象とした「高等部専攻科説明会」兼「見えない・見えにくい方へのサポート研修会」を初開催しました。当日は二十八名の参加があり、視覚障害者支援についての研修を熱心に受講してくださいました。

点字ブロックの理解啓発活動も継続して推進しています。九月十

月の週末には、各種イベント会場で、事前録音したアナウンスを流していただき、点字ブロックの役割を伝える児童生徒のメッセージを多くの方に届けることができました。PTAで作成した点字ブロックの理解啓発ポスターも、掲示に協力してくださる関係機関が着実に増えています。

このような活動が、目のことで悩みを抱えている方に、本校の情報が届くきっかけになるかもしれません。何よりも、本校の存在を知っていただくことは、在籍児童生徒の地域生活や将来の社会生活の充実につながるのだと考えます。今後も本校の理解者、応援者が増えるよう、様々な取組を工夫していきます。





秋盲祭

十月十二日



小・中学部ステージ発表

「劇・シメンシカク王国のしっ
ちやかめっちやか大そうどう」

道路、建物が全て直線や四角で作られた国「シメンシカク王国」。この国の女王は、厳しい規律、規則、規範で国を治めていました。

小学部児童四名は、日常の自分とは違う個性をもった王国の子どもたちを、中学部生徒二名は王国の厳格な女王とその家来を演じました。それぞれ役柄の思いを伝えるためにどうしたらいいのかを自分たちで考え、感情を込めたせりふや動き等で表現しました。

(林 栄美子)



高等部普通科ステージ発表

「何度でも、青春のページを！」

ドリームズカムトゥルーのナンバー「何度でも」の主題を学園系の劇で表現しようと始まったステージ練習は、いつも笑いと熱気に溢れています。普通科生徒と職員、そしてゲストに生活情報科生徒を迎え、たくさんの方の思いが一つになった発表でした。コンクールで打楽器アンサンブルの「クラッピング・カルテット」を披露するまでを描いた短編青春ドラマは、バンド演奏「何度でも」でエンディングを迎えます。「何度でも、いつからでも、一歩踏み出すのなら夢は叶う」と、思いを込めて演奏した本番は、息ピッタリで胸が熱くなりました。これからもそんな仲間を大切に、自分の目標に向かって進んでいきましょう！

(武田 幸美)



中学部作業学習製品販売

「いらっしやいませー」

中学部一年生は作業学習の授業で製作した点字ブロックコースターを販売しました。オリジナルのぼりを作成するなど、販売に向けて意欲を高めて臨んだ当日、緊張しながらも自分から「いらっしやいませ」とお客さんに声を掛けました。ステーション発表をほめられると笑顔で応対し、お薦めの製品を聞かれると新色の製品を紹介するなど、積極的に接客しました。用意した製品は、十五分で完売しました。終了後は、完売できたことで安心して、充実感を味わっていました。

(佐藤 あゆみ)



高等部普通科職業実践製品販売

「完売御礼」

高等部普通科の職業実践の授業で製作した「ポチ袋」と「香り袋」を販売しました。「ポチ袋」は点字用紙をリサイクルして装飾を加えた人気商品。「香り袋」は、収穫したラベンダーを学校オリジナルキャラクターのチューモくんがプリントされた布地で包んだものです。心を込めて丁寧に製作した製品は大人気で、予定していた時間前に完売しました。生徒たちは、お客様が製品を手に取って次々に買い求める姿を前にして、満足感を得るとともに、もっと喜んでもらいたいという気持ちを強くしていました。

(秋本 久美子)



理療科体験マッサージ

「感謝と笑顔」

これまでの臨床実習でスキルアップしてきた三年生二名、総合実技で取り組んできた二年生一名、基礎実習で取り組んできた今回がデビューの一年生二名が、十九名のお客様にマッサージ体験の施術を行いました。一人十五分間の施術はあっという間の時間でしたが、お客様と会話をし、感謝の言葉をいただき、とても充実した時間になりました。

(椎名 靖和)



PTAコーナー

「レッツ〜チャレンジモルック〜」

今年のPTAコーナーでは、フィンランドの伝統的なスポーツ「モルック」を行いました。二回倒れて倒したピンの数字の合計点数が高いほど景品の数が増えるという特別なルールで実施しました。倒したピンの分だけ子どもたちの「おおー」「やったー!」「いっぱい倒せたー!」などの嬉しそうな声が聞かれました。どこに投げたらたくさん倒せるか、どれを倒せば高得点になるかを考えながら投げ、うまく倒せると笑顔になっていました。

皆さんの笑顔で幸せな気持ちになったPTA活動でした。

(PTA 監事 齋藤 麻里)



特総体

九月十三日

「特総体だよ、全員出場！」

第二十三回特別支援学校総合体育大会に本校から参加した種目は、「ピン倒しボール」「フライングディスク」「グラウンドゴルフ」「ボッチャ」の四種目です。小学部から高等部専攻科まで、全校児童生徒十五名が出場しました。

事前には、体育の授業を中心にそれぞれが目標を達成できるよう、練習に取り組みました。当日は他校の児童生徒との白熱した競技を楽しみ、仲間との絆を深める貴重な機会にもなりました。

(大滝 陽平)



学習の様子

小学部修学旅行

十一月十四日～十五日

「何でもできるへっちゃら隊・修学旅行にレッツゴー！」

一泊二日で岩手県雫石町、盛岡方面へ修学旅行に行ってきました。

一日目の小岩井農場まきば園では、クラフト教室「つめつめヒツジ」の体験をしました。「ヒツジの形が好き」と話しながら羊毛を羊の木枠に詰めて完成させました。

二日目は、盛岡手づくり村で血作り、焼きせんべい作りに挑戦しました。せんべいの焼き型を返す動作を「ひっくり返し」の言葉に合わせて行い、最後には一人でできるようになりました。焼きたてのせんべいの味は格別でした。

新幹線、路線バスなど様々な乗り物で移動し、たくさんの人と関わった二日間でした。「修学旅行も終わった！」と笑顔で話し、さらに自信が付いた様子でした。
(石塚 さおり)



中学部修学旅行

十月三十日～十一月一日

「わくわく続きの二泊三日」

中学部三年生は東京・お台場方面へ修学旅行に行ってきました。小学部のときは、コロナ禍で寄宿舎に泊まって県内を巡る修学旅行だったため、「秋田とは違う、東京ならではの文化に触れるぞ！」と期待感も高まりました。

一日目は日本科学未来館を見学しました。視覚障害者の移動をサポートするAIスーツケースによるナビゲーションを体験したり、念願だったロボットとの触れ合い体験をしたりしました。その後、ダイバーシティ東京プラザに行き、施設内のテーマパークやショップでは「東京らしさ」を満喫しました。二日目は、チームラボプラネットと、アジア最大級の規模を誇るミニチュアミュージアム、スモールワールドを見学しました。三日目は東京タワーに登り、メインデッキからお台場を含む東京の景観を眺めて旅を締めくくりました。「秋田は木ばっかりだけど東京はビルばかり!」「見学したところの、全部が楽しかった!」等々たくさん刺激を受け、一つ一つの体験に目を輝かせた三日間でした。

(加藤 しおり)



高等部普通科宿泊学習

九月二十六日～二十七日

「ゆったり、まったり鈴木家の旅」

八峰町にあるあきた白神体験センターで活動しました。

初日の留山散策で、樹齢およそ三百年のブナの巨木についた熊の爪痕を触ったり、二日目のシーカヤック体験で消波ブロックの隙間で自然の波に揺られたりと、山と海がすぐ近くにある白神の自然環境を全身で体感しました。

目標である豊かな自然体験と、自主的な生活態度、仲間との協力が随所に見られた有意義な二日間になりました。

(大滝 陽平)



保健医療科。医療科

敬老マッサージ 九月十二日

「敬意を込めてマッサージ」

敬老の日に先立って、六十五才以上の地域の皆さんを対象に第七十二回敬老マッサージを本校の臨床実習室で実施しました。

今年度は一年生の二名が受付・案内を、二・三年生の三名が施術を担当し、九名の皆さんに敬意を込めてマッサージを行いました。施術後、皆さんが「体が軽くなった」、「肩が楽になった」と笑顔で学校を後にする姿が印象的でした。生徒も対話をしながら施術したことで、充実感に満ちた時間を過ごすことができました。

(佐藤 均)



保健医療科・理療科

北秋田市校外臨床実習

九月二十五日～二十七日

「患者さんたちの笑顔が励みに」

三年生の二名が、北秋田市で三日間の校外臨床実習を行いました。この実習では、延べ四十二名の患者さんに施術を行わせていただくことができました。生徒たちは、様々な症状に対応するため、自分のもつ知識と技術を駆使し、患者さんの声に耳を傾けながら施術を行いました。

多くの患者さんから症状の改善を喜ぶ声が聞かれたことで生徒たちも自信を深め、今後の成長に繋がる貴重な経験となりました。

(河嶋 真)



寄宿舎生活集会

九月十九日

「バランスよく食べ健康に」

今年度四回目となる生活集会を実施しました。

今回は十月、十一月の生活目標「健康保持と病気予防に努めよう」に合わせて安田久美子栄養教諭を講師に招き、バランスの良い食事と健康をテーマに講話をいただきました。

講話のなかでは、一日に必要な野菜の量(二百五十グラム)を袋に入れた砂糖を持って実際に体験する場面もあり、参加した舎生は、実際の重さに触れることで予想以上の量の多さに驚く様子も見られました。

日々の食生活を見直す良い機会になりました。

(森川 咲久子)



後援会だより

後援会費を納入いただき

ありがとうございました。

- 小玉 幸子・佐々木 丈・高橋 義昭・武田 利美・菅原ルリ子・佐藤 テル・宇佐見健二・宝池 文暁・武田 賢幸・小林恵津子・能登屋昌充・藤原 義博・島山 哲也・加藤 鈴子・高野 豊昭・細川 大地・細川平太郎・高橋 望・安田 泉・田中 啓悦
- ※順不同、敬称略
※十月末入金分まで掲載

「ご寄贈ありがとうございました」

- 【メガネの平川様より】
弱視レンズ等
- 【郵便局長会秋田第四部会様より】
リンゴ
- 【東ロータリークラブ様より】
インクジェットプリンター等

栄光の記録

○第二十三回特別支援学校総合体育大会

大会

【ピン倒しボール】

小学部の部 第二位

【ポッチャ】

OP高等部の部 第三位

視覚支援学校Bチーム

【フライングディスク】

ディスクダンス(グループ)

第一位 鈴木稟々果
第二位 鈴木 萌那
第三位 鈴木 萌那

○特別支援学校文化連盟みんなの写真展
優秀賞 「二刀流の手」
中学部一年 湊 愛唯香

令和六年度

春季休業までの主な行事予定

- 【1月】
14日(火) 三学期始業式
- 【2月】
7日(金) 全校PTA
22日(土)、23日(日)
あはぎ国家試験
28日(金) 入学者選考日
- 【3月】
6日(木) 卒業式
20日(木) 修了式
22日(土) 春季休業
(4月3日まで)
26日(水) 離任式

● お世話になりました ●
配偶者同行休業中でしたアンワー留美子先生(旧姓 奥山)が、十一月十五日付でご退職されました。長い間ありがとうございました。

【編集後記】

残暑の九月、十五名全員が出場した特総体。山々が色付き始めた十月、十五名の笑顔のパワーがはじけた秋盲祭。いくつもの経験を重ね、確かな成長を続ける十五名。年が明けると卒業・修了、進級に向けてのステージの始まりです。

冬休み中に充電して、次のステージに備えましょう！
(島山 尚子)